

7・11 【画像は「記録―3」】

1 (表紙)

「 (表題読メズ)

2 (白紙)

3

初 龍眠院霜月良清居士

霞含院壽心休永大姉

4

二代 高樹院山遊永順大禪定門

永祿四辛酉
正月廿六日

蓮臺院蒼雲妙栄大禪定尼

慶長十九
寅正月六日

三代

元和貳年辰八月廿七日
松柏院實庭源真大禪定門

元和二年八月廿日
瑞永院明安妙光大禪定尼

5

竹島院大譽浄本大禪定門

四代

寛文貳年壬寅十二月廿一日
竹有院旨翁宗玄庵主

於米府初宅元祖 道喜夫婦

本浄院天溪妙空大姉

寛永廿一年申六月七日

6

五代 瑞巖院實相以心庵主

圓明院月峯祥雲大姉

六代 徧照院月珊浄海居士

靈岳院心海壽照大姉
七代 眞光院本明實源居士
中興

7
八代 禪鏡院大圓了悟居士
永壽院瑞光智蘊法尼
九代 少林院頓悟良圓居士
慧明院本譽智善大姉

8
月讃妙清禪定尼
申三月晦日

朔日
偏照院月珊淨海居士

俗名大谷九右衛門尉勝信

於米府三代目也
寛政三亥年ニ
百回忌執成

9
宝曆九年己卯十月朔日
宗嶽租榮信女

勝信嫡女、雲州大原郡加茂村
佐藤氏_五嫁ス、則四代目勝房ノ姉也

10
花清明金
道喜公ノ
ヲハ

三月
幻夢女
瀬兵衛内儀ノ
兄弟ナリ

11
幻露女

享保十七子六月
流光童女
別家大三郎
娘也

12
二日

龍眠院霜月良清居士
正月三日

道喜公曾祖父ノ法名

霞含院壽心休永大姉
正月三日

道喜公曾祖母法名

瑞巖院實相以心庵主
延宝七年己未九月三日

俗名大谷瀬兵衛尉勝實

於米府二代目也
道喜公嫡男
幼名惣助是也

右靈延宝七己未ヨリ至安永七戊戌
百年回忌法事致執行也

13

文化七年五月
蓮葉童女
勝意娘
歌野

14 (白紙)

15 (白紙)

16
四日

正保二年五月
教夢童女
瀬兵衛娘

理眼妙證
内儀ノ
母方祖母

17

寛政十二年庚申十月四日
少林院頓悟良圓居士

大谷九右衛門尉勝長
新九郎勝意力父
於米府六代目也

行年四十二歳卒ス

文化五年辰十一月四日
凜霜禪童子

勝意倅源之丞法名ナリ

行年二歳

18

五日

六月五日
電庵幼光童子
瀬兵衛
倅

19 (白紙)

20

六日

慶長十九年寅正月六日
蓮臺院苍雲妙栄大禪定尼

高樹院内室也、則於米府元祖道喜公

祖母靈■會見郡尾高村源光寺内

五輪墓有也

于時慶長十九寅ヨリ宝曆十三未一百五拾回

忌ニ至前午十一月■越致法事執行也

又慶長十九寅ヨリ至文化十酉正月六日

貳百回忌依而文化七庚午正月高樹院正當

貳百五拾回忌法事之砌一所■越法事□

執行也

21

文化十二年亥十二月六日
真徳院梅天義壽居士

深田喜左衛門

22

七日

寛永廿一年六月申七日
本浄院天溪妙空大姉

於米府元祖道喜公内室法名也

23

靈岳院心海壽照大姉

元禄十二年卯十二月七日

於米府三代九右衛門勝信内儀
四代中興勝房母儀也

于時寛政十年一百年忌_ニ至正当_ニ致法事執行ナリ

宝永五子十一月
浮月信女 大谷善兵衛母

24

八日

妙連 瀬兵衛妹

雪峯妙栄 瀬兵衛

青山浄雲 内室ノ
曾祖父母

道安 瀬兵衛内室父

25

西往慶林

大屋兵左衛門
妻

閑湛黙入信士

正徳元卯八月

末家大屋
源左衛門事

富門院早梅幽香居士

申十二月八日勝長弟

大山勝手役丸山住小谷官太夫

26

九日

幻影_{十月} 瀬兵衛悴

寛政九年己十月ノナミ仏
玉譽智照貞珊大姉

瀬兵衛勝起妻ノ母

27 (白紙)

28

十日

承応二癸巳四月十日
松溪妙貞大姉
道喜公
内儀

承応二癸巳正月十日
雪心宗梅居士
俗名兵左衛門
元祖道喜公舍弟ナリ

別家藤兵衛方先祖ナリ、続子無之依而
道喜公ノ妾腹男有テ再家統為
致ス、則道喜公ヨリ護物書付至今
藤兵衛方致所持云云

29

享和三戊正月十日
天應了真居士
勝起ノ五男俗名林之丞

30

十一日

寛永十三年九月十一日
満溪明天大姉

瀬兵衛内儀
駿河出性服部氏娘

心覺院妙雲日休

俗名於栗女
瀬兵衛内儀
ノ妹也

元禄七戊正月
覺月貞壽信女サイ

慶安四年卯三月
正善院殿日住

阿部四郎五郎様御法名

31

道空

江戸大屋彦左衛門

壽譽女

瀬兵衛女

永與院安政二年卯正月十一日
梅源實翁居士

深田三郎右衛門喜行
勝廣叔父也外男也

32

十一日

天岩宗心庵主享保三戌七月十二日

別家二代目藤兵衛法名ナリ
道喜ノ二男則当家二代目勝實ノ弟也

實相妙珠大姉元文三年巳十一月十二日

別家大三郎母

33

徳相理田居士宝曆八年寅四月十三日
俗名於京都
上田町ニ徳田主水

于時文化四年五拾回忌相勤ル

主水公息女タキ盛人後

四代目勝房舍弟、幼名藤八ト号
後年職元司ト成リ徳田主水

内裏侍女ト成リ、リヨコ院ト号ス

改、寛保年中舍兄勝房江府
相詰願事之砌段々出情有之云云

相譽艷月麗好大姉天保八年酉八月十二日

勝廣姉しけ
末次彦右衛門妻

34

十四日

聴徳院殿天明七年
末七月十四日

35 (白紙)

36

十五日

崇源院一品大夫昌誉大禪尼

本源院様

宝永五年七月十五日
別家
寶林玄珠大姉
藤兵衛妻

37

文政四年辛巳三月十五日卒ス行年八十四歳

永壽院瑞光智蘊法尼
勝起ノ妻
勝長ノ母

38

十六日

万治三年三月十六日
阿部
誠諦院殿日善
四良五郎様

竹寫院大譽浄本大禪定門

俗名大谷甚吉、竹寫渡海
開基則竹寫ニテ病死ス

39

尤彼島石碑有ル、右甚吉
道喜公ノ甥也

道連
瀬兵衛内方
祖父

月庭宗秋信士
瀬兵衛
マヽ男

寛延三年六月
勝起実母
夏凉妙雲
勝房妾也

實成寺墓有

寛政六年寅六月十六日
勝意
慧明院本譽智善大姉
実母

末次彦右衛門安道姉ナリ、則心光寺墓有

心光寺ニ墓有、干時文政九年戌六月十六日正当三十三回忌経宮致候事

永代月牌米□□米壹斗六升六勺

□□同寺より受取書有

40

十七日

一品徳蓮社崇譽道和大居士

明曆四七月
了定 瀬兵衛妻
兄

貞田信女 同
姉 人

円清覺運 野波

41

文政九年末次彦右衛門安道
寂蓼院幽譽静心宗玄居士

戌四月十七日行年四十七卒

天保十二年丑六月十七日 八代目
蓮臺院薫室自香大姉

藤之丞勝廣妻おくま

42

十八日

明和八年卯九月 勝起娘
大光童女 キリ

行年三ツ安国寺墓有

43 (白紙)

44

十九日

七月 別家藤兵衛
却安了空 ハ、

文政四年巳三月十九日
白雲洞秀禪門

45 (白紙)

46

廿日

大猷院殿

元和貳年辰八月廿日
瑞永院明安妙光大禪定尼

於米府元祖道喜公母儀
文化十二年貳百忌當ム

勝意代

円譽覺入七月

長岸壽清八月
瀬兵衛
妹

47

業譽還天空脱上人六月廿日

業譽上人カテン和尚ノ事

江府増上寺二十一世業譽大僧正
元来隠州産竹寫渡海中先祖者

世話依テ増上寺有付業譽和尚
盛長之後弥発達終ハ増上寺ノ

大僧正ト成リタモウ、右之由緒ニテ先祖
願志有之參府之砌預世話ト承伝旨則

右大僧正恵比須大黒眞像并ニ阿弥陀
如来掛物并自筆ノ名号等授与

セウ、至今所持致ナリ

48

廿一日

竹有院旨翁宗玄庵主寛文貳年壬寅十二月廿一日

於米府初宅元祖
道喜公御法名也

于時寛文貳年壬寅ヨリ至文化八年未
正当一百五拾回御忌七代目新九郎

勝意致経営也

点龍宗酒瀬兵衛
舎弟

49

幻生童女

華屋智春野波善五郎

貞操院松室素琴大姉文政十二年丑十二月廿一日
於米府七代目新九郎勝意
内儀則勝廣母也

清雲院妙顔日輝大姉嘉永六年丑十一月廿一日
勝廣妹以勢
内田圓助妻

50

廿一日

51 (白紙)

52

廿二日

見性院獨了周達居士文政十丁亥五月廿三日
大谷新九郎尉勝意
於米府七代目也

安花清心

53

野波長左衛門
夫婦

覺本長圓

54

廿四日

台徳院殿

圓明院月峯祥雲大姉元禄三年午十一月廿四日
實相以心内儀則子
三代目勝信ノ実母也

眞光院本明實源居士宝暦四年戊閏二月廿四日
四代目九右衛門勝房当家
中興云云行年七十三

于時宝暦四戌ヨリ至享和三亥
正当半百忌曾孫新九郎

勝意謹致経営ナリ

55

化應幼露童女

瀬兵衛孫ヲサン

56

廿五日

天和四年正月廿五日
智月妙恵信女
お長
改名

法運栄性

秀悦父母

未正月
常浦童子
瀬兵衛
孫久五郎

花屋妙讃

寛政二年戊十月
玉峯妙姿童女

行年十三瀬兵衛勝起娘ヲトミ

天保三年辰七月廿五日
至寶道珍居士

俗名常吉勝長之弟也

57 (白紙)

58

廿六日

永禄四年辛酉正月廿六日
高樹院殿山遊永順大禪定門

於米府元祖道喜祖父

干時永禄四辛酉ヨリ至文化七庚午正当
貳百五拾回忌則尾高村於源光寺

本寺心光寺聴譽和尚請待并尾高
参詣ノ類家末次安道深田三良右衛門

法事致経営十代目嫡流新九郎勝意代ナリ

野波態之丞陶山重蔵

59 (白紙)

60

廿七日

元和貳年辰八月廿七日
松柏院實庭源真大禪定門

於米府元祖道喜父

西蓮社了譽上人

生譽寂道梵貞上人

享保三戌年
單主童子 九右衛門子

61 (白紙)

62

廿八日

蘭溪幻秀童子

享保貳酉九月
壽林休栄大姉

別家藤兵衛母

63 (白紙)

64

廿九日

妙慶

瀬兵衛妻母

寛政元年西十月廿九日
禪鏡院大圓了悟居士

五代目瀬兵衛勝起
勝長父

65

嘉永七年寅四月廿九日
洞林院梅堂要津居士

深田喜左衛門

66

晦日

春窓妙花

瀬兵衛妹

一祐了心 同

寛永廿貳年三月
月讃妙清

瀬兵衛母

壽林童女 同

元祖道喜後妻

66 (白紙)

67

神戸市須磨区月見山町

三丁目四番八号

大谷武廣

68 (白紙)

69 (白紙)

7・11 【画像は「記録―3」（裏面）】

1

高野山五之宝谷地寶院^江往古會見郡尾高
御城下之節より師檀由緒、則先祖代々之位牌
有之候処、年経及破損旨^{ニ而}修覆相加候様近年
役僧申、詔^ニ付一昨寅年数本位牌取扱も
紛敷^ニ付合牌可然相考、則地寶院役僧
相頼致注文之處、去暮大坂表より船使

2

相達、慥受取置候處、今度地寶院役僧
別紙何角請合之上大坂北久太郎町三丁目
山城屋重次郎方^江右役僧より送付、則米屋半左衛門
方客船便^ニ送出候事、合牌代金尅両銀札^ニして
百廿三匁也、此度右役僧へ相渡、則二歩金二ツ相渡事
文政四年辛巳五月廿一日

3 (白紙)

4 (白紙)

5 (白紙)

6

和田九右衛門尉良清

法名 龍眠院霜月良清居士
霞合院寿心休永大姉

和田一類^心永ノ乱^ニ勢悉衰微、剩同性別
殆隱遁身ト成ル、于時文正頃福寫家旗下ト成
於木曾地三千石領時^ニ福島氏隱謀有テ
強諫ル故却及危急暇乞捨^ニテ立去リ
但州大屋谷塾居ス、後杵原氏懇望之旨
使者雖至來難仕二君及断之所、播磨守
直召^ニ因テ嫡孫差出ス、尤古主^工憚リ本性和田除
塾居ス、地名取り大谷玄番ト号、客分^ニテ家老上立
良清永順^ハ弓矢道ヲタチ父子月花ヲ友トシ
光隱贈良清齡ツキ、則大屋谷^ニテ卒ス、永順薙髮
シテ山遊ト改、伯州會見郡小鷹^エ塾居ヲ移ス

7

和田瀬兵衛尉永順

永順父良清卒テ後薙髮テ山遊ト号ス

実真任好小鷹^エ蟄居ヲ移ス、于時永祿

四年辛酉正月廿六日卒、法名高樹院

則同所浄土宗源光寺葬リ

石碑有ル

永祿四辛酉正月二十六日

法名 高樹院山遊永順大禪定門

慶長十九年寅正月六日

蓮臺院花雲妙栄大禪定門

8

大谷玄番實真

法名 松柏院實庭源真大禪定門 元和式年辰八月廿七日

瑞永院明安妙光大禪定尼 同年同月廿日

右實真但馬国大谷々ヨリ伯州會見

郡小鷹城主ノ召ニ因テ勤仕ス

于時杵原家宗領短命ニ卒、嫡男幼年ニテ末家ナレトモ同苗

播磨守勇名有之故吉川元春依吹挙、則家督相統ト

9

成ル、實真補佐シ盛重公勇將ナル故威風閼東西独歩ス

惜カナ程ナク盛重公卒去、尤男子二人有之、跡目論

ヨリ事起、終杵原家滅亡ス、濫觴ハ同役何某因

謀叛ナリ、則玄番實真八幡社傍ニテ討果、其身モ

討死致ニツイテハ杵原家再建無覺束依テ乱軍打破リ

再但州大屋谷蟄居、于時杵原血脈殆絶タリ、誠武運

ツタナキ我々ナマチイ企致、先祖ヲケカサンヨリハト一族再武ノ

一〇

思殆絶タリ、依テ玄番ニ幼童兩人有甥、甚吉ニ兄守護

サセ同国米子引越居住ス、實真ハ大屋谷蟄居シ、元和式年

八月廿七日卒、法名松柏院ト号ス、則高野山地宝院其牌有テ

日牌寄附之旨其頃家富ルト雖モ家業無之難叶右甚吉

廻船ヲ業トス、時元和初ノ頃越後国ヨリ帰帆之砌風^与竹寫エ

漂流、暫ク全寫巡見処朝鮮国去ル事四五十里誠人家モナク

空之島産物有之故海上里数相考湊山下帰帆折柄

因伯御太守新太郎公御幼稚ニテ為御城代安部四郎五郎公

御越之砌ニテ早束御注進申上ル所、則甚吉江府^江御召

二

元和四年竹寫渡海御免御奉書下リ、難有渡海

致ス之所、元祿九年御制禁、右濫觴ハ在力別記

故略之、全竹寫渡海開基ハ甚吉ナリ、年経^テ竹寫
ニテ病死、則彼島在石碑、法名浄本ト号ス、後子
竹寫院^ト贈号ス、世代同様不可怠^レ供養ヲ
于時實真二人ノ童子成人宗領九右衛門勝宗
二男兵左衛門号、兵左隣町為致別家者也

12

大谷九右衛門尉勝宗 行年九十七歳ニテ卒

法名 寛文元年壬寅十二月廿一日卒 隱居名則
竹有院旨翁宗玄庵主庵主 道喜ト号

於米府大谷家ノ元祖是也、于時竹寫渡海ノ
開基予カ先祖ナリ、時ニ村川市兵衛相加エル濫觴ハ甥甚吉
竹寫エ漂着数日滞留シ全島巡見之所人家更無シ

13

尤数多所務有之故湊山下エ帰帆シ同性勝宗エ
具ニ相達所ニ勝宗未隠士タリシ時故、則甚吉名前ニテ
竹寫致渡海度之旨御訴訟申上、頃ハ元和年中
新太郎将少御幼君テ為御城代安部四郎五郎公米府エ
御越之砌勝宗故有時々任公ス時ニ村河市兵衛モ安部公エ
由緒有之、右竹寫渡海相加度之旨、則安部公
御取持ニテ市兵衛連名シテ及出願ニ、尤安部公
御帰国之砌市兵衛甚吉兩人御召連、則

14

江府相詰御訴訟申上、則御老中ヨリ因伯
御太守新太郎君御名宛竹寫渡海不可有
異儀之旨御奉書相下、則甚吉開基ニ附
右之御奉書奉頂戴渡海中手所持致
全於戰場一國ヲ伐随タルモ同様誠空居ノ嶋見頭ハシ
日本ノ土地ヲ広メ御式帳戴ル之段拔群之可為功
之旨因茲兩人共九年振リニ一人宛参勤之独礼
御目見御紋御時服御尉斗目拝領渡海之

15

船エハ御紋之船印等拝領、具ハ別記ニ有、于時勝宗未再
武之志有之故発願ヨリ甥之名前差出之所惜カナ
甚吉於竹寫病死ス故無扨九右衛門自身之
名前ニテ諸事相勤、尤甚吉部屋住ノ事コトニ

年来商売林業ス、村川儀八年長□ニ本性ヲ
名乗浪人立居申故初筆戴御訴詔申上ル
故、則渡海御免御奉書ニモ村川市兵衛

16

大屋甚吉ト有之云云、尤勝宗名前於差出テハ当家
竹寫開基ト云筆下ニ可附筋雖無之民家下リ今更
聊之キ無益事、因テ本性ハ勿論中古ヨリノ大谷迄モ秘シ
甚吉同様大屋九右衛門ニテ繼目ノ御目見申上也
末世子孫迷トモ可成ル筋ユエ為心得予メ所載置者
也、于時西御本丸御建立之砌竹寫杣檀等
御用木献上至今御書院悉竹寫杣檀ト云云

17

右御用木為献上兩人共参府、則首尾能
御目見申上、則御用本御紋之差札至今
所持致スナリ、右御用相勤頃ハ寛永十五年二月
大猷院様御代之御事也、附タリ御書院床之板并ニ
御書棚之板至于今竹寫梅檀云々

一 竹寫渡海発願之時道喜未再武所存有之故其身名前不出甥甚吉
願主ト成ル、則御奉書写左之通

18

從伯耆国米子竹嶋■
先年船相渡之由候、然_者
如其今度致渡海度之段
米子町人村川市兵衛
大屋甚吉申上付_{而達}
上聞候之處不可有異儀
之旨被仰出間、被得其意
渡海之義可被仰付候
恐々謹言

| | | |
|-------|-------|----|
| | 永井信濃守 | 在判 |
| 五月十六日 | 井上主計守 | 在判 |
| | 土井大炊守 | 在判 |
| | 酒井雅樂守 | 在判 |

松平新太郎殿

19

大谷九右衛門尉勝實

延宝七己未九月三日

法名 瑞巖院實相以心庵主

勝實幼名惣助於江府九右衛門ト改号及老年隱居シ瀬兵衛号ス、惣助若年トキ父勝宗及老年事ニ眼病ニテ参府

20

難相成為代勤江府相詰既当日被相成前髪ニテ例無之、則於御殿中元服シ九右衛門ト改号御目見首尾能相勤因テ父勝宗隱居シ藤兵衛ト改号于時末家兵左衛門短命ニテ先達手前エ家内諸込有之ユエ父勝宗妾腹ニ男子有之、追而本妻ニ男子誕生、則惣助ト号、本家相統ト定、右妾腹ノ男ヲ惣助勝實力弟ニ披露シ再別家兵左衛門跡ヲ相継ク、因テ勝宗

21

二男隱居名ヲ譲リ其身薙髮道喜ト又改号ス因茲別家兵左エ門跡代々藤兵衛通名ト成ル、勝實数度江府相詰御目見申上、則記録有之所先年類焼ニテ書記悉類焼セリ、尤寛文十一歳未五月廿八日延宝七年七月九右衛門参府

御目見ハ其翌八月ト相見ル、則其節ノ献上并御役人別等別記有第一 延宝九年酉七月村川

市兵衛参府之砌御達書之文言ニ顕然タリ

22

其以後之儀モ右類焼之砌参府日記焼失、尤焼殘書記ニ有之丈ハ其時ノ世代脇ニ書顯也

寛文十一年亥五月廿八日 御目見仕砌勤門左之通

(上段)

酒井雅楽頭様 土井能登守様

同 河内守様 堀田備中守様

阿部豊後守様 右若御老中様也

稻葉美濃守様 小笠原山城守様

久世大和守様 戸田伊賀守様

土屋 組 馬守様 本多長門守様

板倉内膳正様 右遠国御奉行

右御七人様^エ竹島鮑 右御五人様鮑

五百貝入一箱宛 三百入一箱宛

(下段)

甚吉ヨリ勝宗勝實勝信四人ハ毎度御目見仕
記録有之所類焼之砌多分失タリ焼残丈
書載ナリ、于時年号ナク何連ノ時有之不分明
候得共月日同様有之故左書載ナリ

則御目見之日 □ (并カ) 次第御切紙之写ト相見ル

五月廿八日

一 如例月御礼相済

参勤之御礼

綿式百抱金馬代 松平肥前守

綿百抱金馬代 松平主殿守

蠟燭二箱金馬代 松平筑前守

一 上杵弾正大弼在着ニ付以使者蠟燭五箱二種一 (汚損)

被差上之、使者銀馬代ヲ以自分之御礼色部又四郎

終 而 御次之間伺公之面々并ニヲチ縁 ニ而

23

于時勝實代竹嶋渡船、寛文六年朝鮮国釜山沖及船破損、尤
船頭水主遊上朝鮮国所々馳走預リ順々送帰ニ成ル、其節
朝鮮国王ヨリ船頭水主エ送別之目錄二通有至于今所持
具別記有ル

伯耆国米子町人参上
箱書 大谷九右衛門
右終 而 入御

20

大谷九右衛門尉勝信

元禄五年壬申九月朔日卒

法名 徧照院月珊淨海居士

勝信代延宝九年酉御巡見御宿申上、則

竹寫之様子御尋ニ付、御答申上一通別記ニ

24

有之并江府相詰御目見申上、年号
相知分貞享貳年丑五月廿八日也、其砌寺社
御奉行水野衛門太夫公坂本内記公本田淡路公
御三人也、于時元禄五壬申九月朔日壮年ニテ
卒ス、子供三人有、嫡男三良松後政太郎亦九右衛門
改号ス、二男藤八、一人ハ女子是ハ雲州大原郡
加茂村佐藤氏エ嫁ス、勝信卒去時右女子十三歳

25

三良松七歳也、二男藤八成人後チ職元司ト成ル
徳田水主ト号ス、公家武家余多入門指南ス
拔群発也、□米府御城主聴徳院殿御在
世時江府^エ御下之砌於京地職元入門御指
南申上、御振舞之時、則御引茶誠□所之
御領主御自身配■（木偏に善）、全其身芸能ニ因ル故也
独歩手柄也、則江州公御帰国ノ後チ水主方エ贈給

26

御直書手前エ送り致所持、徳田氏平安城上田町
居住ス、惜カナ無継子其身一代限也、尤女子有之致
養子可為家統旨雖有之、全芸能ニ因テ勤仕身トシテ
致養子、ナマシイ汚名センヨリト辞退ス、娘多貴
内裏侍女ニ捧タリ、侍女類都^而御一代限ナレトモ右多貴
御殿中諸式格別功者ニツキ叶

天氣ニ御ニ帝奉勤仕、年老為尼■（寥の「シ」が「去」）孝院ト号ス
徳田氏父子共拔群發達也、父水主宝暦八年寅四月

27

十三日卒去ス、法名職元院徳相理田居士、娘■（寥の「シ」が「去」）孝院
京都柳ノ馬場通住ス、天明年中マテ音信ヲ通ス、京都大火火後
音信絶タリ、誠勝房代寛保年中上野

28

宮様御由緒濫觴全徳田氏吹拳ト云々、予カ子孫
職元院供養勿怠、職元俗名徳田主水光茂、娘■（寥の「シ」が「去」）孝院名タキト言
于時勝實代寛文六申年中竹島渡海船朝鮮国吹流サレ
同所釜山沖ニ^而及破船、尤舟頭水主不残無異游上リ
帰朝ス、其砌朝鮮国王ヨリ為送別ト舟頭水主^エ
種々贈物有、則右目錄式通于今至致所持、具ハ
別記ニ有ル故略之、附タリ

勝信代延宝九年酉五月御順見様御宿申上ル、則其砌

竹島之様子御尋ニ付、左之通書上之事

但、左之書上ニ^{（イ）}大献院様御代五十年以前竹島拝領ト書頭

有之御目見之初発ト見エタリ、竹島渡海御免ハ

台徳院様御代元和四年五月十六日也、延宝九年書上節

29

渡海御免ト御目見改發ト略シテ書上候モノト見エタリ

延宝九年酉ノ歲御順見様御宿申上候覺

竹嶋之様子御尋被成候ニ付此一通書申候

- 一 大猷院様御代五十年以前阿部四郎五郎様御取持を以竹嶋拝領仕、其上親共より御目見江迄被為

仰付難有奉存候御事 一 彼島江年々船渡海、ミち之魚之油并串蛸之所務仕候御事

- 一 竹島江隱岐国嶋後福浦より海路百里余も可有御座由海上之儀ニ御座候ヘハ慥ニハ知レ不申候事

一 竹嶋之廻り拾里余御座候御事 一 嚴有院様御代竹島之道筋ニ式十町斗廻り中小島御座候、草木無御座

岩山ニ而御座候、廿四五年以前阿部四郎五郎様御取持を以拝領船渡海仕候、此小島ニ而もミち之魚之油

少宛所務仕候、右之小嶋ヘ隱岐国嶋後福浦より海上六十里余茂御座候御事

五月十三日

大谷九右衛門尉勝房

宝曆四年戊閏二月廿四日

法名 真光院本明實源居士

30

勝房七歳之時父勝信卒ス、于時元禄六年江府エ

相詰申様蒙仰、勝房幼年ニ附別家藤兵衛

則九右衛門トシテ差出様仰附ラレ、其翌七年甲戌春

藤兵衛飯ニ九右衛門ト名乘り致参府、則元禄七年甲戌

三月廿八日例之通首尾能

御目見仕ル、御殿先格之通詰所ソテツノ間、其砌

31

相勤ル御役家左之通

大久保加賀守様

阿部豊後守様

戸田山城守様

土屋相模守様

32

右御老中

柳沢出羽守様

牧野備後守様

右

33

秋本但馬守様
加藤佐渡守様
内藤丹波守様
松平弾正守様
右若御年寄

34

本田紀伊守様
戸田能登守様
松浦壱岐守様
右寺社御奉行
御奏者 久世出雲守様

右之通首尾能相勤ル、具別記有之^ニ附略之

附タリ、藤兵衛首尾名代勤相^{下上}為褒美拝領御時服讓ル、則至于今

35

同人方^ニ所持ス、年号月日具右御時服入置箱書頭有之也

殿様其砌御在江戸^ニ附、同四月朔日

御目見首尾能仕ル、其時御役人左之通

御家老

荒尾志摩様

36

御聴役

吉田平馬殿

同 太田次左衛門殿

同 高木太左衛門殿

御奏者

岩越次良兵衛殿

右之通首尾能相勤ル、具別記有ル故略之

37

于時元禄七年如例竹寫渡海致之所彼島

唐人大勢参居体^ニ附渡海舟中少人数^{ニテ}無據

帰朝ス、其旨御達申上之所

伯耆守様ヨリ御注進御評儀之上、其翌年ハ

鉄鉋鎗刀等蒙御免、御威光ヲ以致渡海

38

之所、去年ヨリモ唐人大勢竹寫工雖モ参居ト、押而
此方之船湊工漕入タリ、唐人等乗舟シ同所大坂浦ト
申所工退ク、于時唐人兩人陸ニ相殘、一人通辞有之
船頭共打寄遂吟味處、不埒之申分ニテ不得止、則唐人
兩人共ニ召捕為乗船、隱岐国マテ帰帆ス、隱州御出張
御役人御穿鑿之上、米府帰帆致シ、則

39

伯耆守様工御達申上、追々江府御注進

暫ク勝房宅工唐人御預ケト成ル、右唐人名アヒチャシ
トウユイ

其後鳥府工為召ラレ、船頭水主共召連致出府

唐人道中為警固江州公御組士御兩人

出府之事、則於鳥府御吟味之上唐人

40

江府工為召、御穿鑿相濟、長崎マテ御指下シ

長崎ヨリ御贈帰ト成ル、具別記ニ在ル

于時元禄九年竹寫渡海御制禁之旨

御老中様ヨリ御奉書因伯之御太守伯耆守様工

至来、其御文言左之通

先年松平新太郎

因州伯州領知之節

41

あいきの (破損 白伯州米子之力)
相窺之 「 」

町人村川市兵衛大屋

甚吉竹島江渡海

至于今雖致漁候

向後竹嶋江渡海之儀

制禁可申旨被

仰出之候、可被存其趣候

42

恐々謹言

土屋相模守

政直

正月廿八日

戸田山城守

忠昌

阿部豊後守

正武

大久保加賀守

忠朝

松平伯耆守殿

43

右之御奉書ヲ以伯耆守様ヨリ竹島渡海御制禁被仰渡

両人共無是非御請申上ル、右御制禁發リハ先達^而連帰ル

唐人御贈帰以後、朝鮮国王ヨリ竹寫之儀ハ唐土地相違

無之由通達有テ、シキリニ朝鮮貞王コンホノヨシ、則扱ニテ

貞王ヨリ竹島從往古日本ノ御支配相違無之旨、則

証文御取附遊サレ、其上^{ニ而}朝鮮貞王エ御預相成云々

附タリ 當時於御威勢中々以朝鮮貞王懇望タリ共容易御任セ被成間鋪モノヲ

常献院様御代柳沢一件ニテ御静謐不成、御時節彼是折悪

「 惜テモ無余先祖ヨリ聴伝書戴穴賢々々

44

于時勝房竹寫渡海御制禁以後家業失、雲州エ立去願差出之所

公方様エ為名前者他所エ難被遣、追^而可被為思召在之間

他国出事御差留之旨被仰出、則當時先為取統料

米城下魚鳥問屋座口錢九右衛門一人之家録被仰附置旨

当国御城主荒尾成倫様御書判被為居御奉書ヲ以

被仰附難有御請奉申上、則米府^ニ家統ス、誠^ニ本源院様

御高恩永ク不可令忘却、尚至子孫マテ右之御奉書大切^ニ相守

可申事、全竹島渡海先祖開基タリ因テ由緒ナリ、偏^ニ乍恐

公方様御余光故ト難有奉存上旨、勝房寛保年中東武エ

45

相詰御歎申上節具奉達御聴置云々

于時享保九年辰四月從当

御代様竹島渡海越方之儀、段々被為遊御尋候^ニ付

相模守様マテ御請書仕差上ル、具ハ別記有之故略ス

一 殿様御代替御目見仕来江府相詰居候節、例之御目見申上并^ニ

江府逗留中御交代之砌御迎御見立仕来事、其上御時服并御上下

拝領仕于今所持致ス、御当家様何代并私宅何代力享保三年

成十二月廿七日之夕長屋類焼ニ付書記悉焼失、年号月日不分明、尤御時服拝領仕候節御家老荒尾志摩様ヨリ

46

御書有ル

一

御太守大廣院様御代延享元子年於鳥府御在国之節年頭御目見之儀奉願候所、則八月廿二日御聴届被為

仰付、則大和様於御館以御書付被仰渡事

大和様御老役牛尾金右エ門殿上村惣右衛門殿御勤中

(上段)

其方儀御在国之

節年頭

御目見願之通被

仰付候

子八月廿二日

(中段)

大谷九右衛門殿 牛尾金右衛門

上村惣右衛門

御用之儀有之候間

唯今

御館江可被出候、以上

八月廿二日

(下段)

大谷九右衛門殿 牛尾金右衛門

上村惣右衛門

追而申入候、此紙面

昨晚可遣之处、夜入

候之故今日遣候、何分

早御屋敷可被出候

以上

八月廿

47

一

勝房元文四年未九月五日上野江登山、諸太夫大西淡路守殿エ

清谷前大納言様同中将様御両所御添書差出ス良有テ、御坊官

万里小路民部卿御出ニテ御請取、其翌六日上野御殿江勝房御

呼出、家筋由緒格式等御尋ニ付、具書頭御請書差上ル、御坊官ヨリ被

仰候ハ、其方儀清谷御両所ヨリ宮様江以御直書御頼ニ付

則御出入被為仰附候、其上御目見之儀ハ明後七日
宮様日光^江御登山被遊候間還御以後可被仰付之旨
則同月廿三日宮様日光ヨリ還御被為遊其翌

48

十月十五日宮様御目見被為仰付、首尾能

御目見申上難有仕合、則其翌申正月廿六日年始之
御目見被為仰付、則元文五申年ヨリ延享改元子
年マテ五ヶ年之間勝房致逗留^ニ附毎年正月廿六日
御定日^ニテ御目見申上ル

一

宮様ヨリ元文五年申七月九日牧野越中守様^江龍王院
之院家為御使九右エ門願事之儀御頼之被為添
御言葉、則同月十二日牧野様右御頼之筋御承知之旨
御請申来之由、諸太夫大西淡路守殿ヨリ被仰渡[■]

49

一

寛保元年酉十二月十八日九右衛門身分之儀
宮様ヨリ相模守様^江御頼之被為添御言葉之旨御坊官
相模守様御宿坊^江被進候御書左之通

護法院 万里小路民部卿

以手紙得御意候、然^者兼^而御存知被成候通大谷九右衛門事
京都御外戚清水谷前大納言殿^江御心易御出入
仕候故、彼御方より御頼有之

50

宮様^江御目見等被仰付候事御座候

此度九右衛門御公儀^江願之筋相濟、国元伯州
米子^江罷歸候由、就夫九右衛門儀米子御城主
不相替只今迄之通万事御憐愍之御申付

被遣候ハ、

宮様御悦可被思召候間、此等之趣無急度

貴院より御檀家御役人中^江宜御申入可被成候、以上

51

十二月十八日

一

同月廿六日右為御請相模守様御内蓮花寺
五郎八殿上野^江登山有之御請相濟^ニ附、御宿坊
護法院ノ院家ヨリ御請書左之通
從松平相模守殿

宮様^江御請口上之趣

52

一 此度大谷九右衛門儀御頼被為遊候趣

承知仕畏奉存候

一 九右衛門

御公儀^江御願申上候儀^茂御座候、此以後

右等之相願候ハ、役人共評儀仕可遣之由

53

此儀ハ津田周防ヨリ内々^ニテ護法院マテ之
口上^ニ候

十二月廿六日 護法院

右因伯御太守ヨリ御請相濟^ニ附御坊官ヨリ左之通御書面

大谷九右衛門殿 万里小路民部卿

ノ

54

以手紙申達候、然^者御自分事松平相模守殿^江
御頼之儀、宿坊護法院を以此度被仰入候處

昨日蓮花寺五郎八^与申仁を以護法院迄御承知

之由御内證御請申来候、因茲右之趣申渡義

有之候間今明日中^ニ上野

御本坊迄可被相越候為其如斯候、以上

十一月廿七日

55

右御書来其翌廿八日勝房登山仕候處、御坊官万里小路民部様

被仰聞候ハ、其許儀相模守殿^江宮様より御頼被仰進候處、御請之為

蓮花寺五郎八登山有之御請并相濟候、先達^而其許書上之通

米子御城主ヨリ是迄之通万端御憐愍之筋無異儀可被下置

候之条、其許子々孫々至迄難有可被奉存候、尤右等御義約

被為濟候一許至後年候^而も違変有之候^而者御当山之

御瑕瑾^ニも罷成候義候得^者、早速御当山^江吹上可申旨委細

被仰渡冥加至極難有御請申上候事

延享貳年丑四月於鳥府勝房^江被仰附御切紙之写左之通

56

大谷九右衛門殿 牛尾金右衛門

御用之義有之候間、明十二日

四ツ時御館^江

可罷出候、以上

卯月十一日

十二日四ツ時、則勝房御館_江罷出候処

御切紙を以被仰付、其御書写

57

左之通

大谷九右衛門_江

其方儀上野

宮様被為添

御言葉候段被成

58

御承知候其旨

相心得可申、以上

59

勝房何方差出由緒書有之名宛無之年号無之己二月ト而已

有之勝房江府相詰志発端隕元文弍年己二月之

事ニテ可有之愚考ス、左ニ書顯置也

覚書

一

日光宮様_江之御手懸り下冷泉宰相様

右_者日光宮様御伯父様ニテ御座候、徳田主水取次を以

60

御出入ニ相濟御不便ニ被為思召、乍恐私儀寸志之

御願聞東_江罷下り候節_者則從冷泉様御書を以

日光様_江御頼被為遊被為下候儀御座候

一

西御丸様大上臈於可世御方様

右お可世御方様御里元桜井三位様則三位様御妹姫様也

お可世様姉姫様松平大和守様御母堂様也、主水事元来松平

大和守様より出候徳田家也、依之大和守様_江御出入仕候ニ付桜井様_江も

御懇意御出入仕候、就夫私義も主水取持を以御出入ニ相濟江府_江

罷下り候節ハ從三位様お可世様_江御頼御書被為

61

遣可被下候儀御座候

一

公方様御側御用人加納遠江守様御内用人_富

_富樫弥助様
金子文治様

右御方様_江御手懸り鞍馬山命壽院京都革堂行願寺右弍ヶ寺兼

帶智泉院役者吉祥院

此命壽院儀^者私共代々宿坊檀縁^{ニ而}御座候、尤右之命壽院義
加納遠江守様御内富樫弥助様^江所縁御座候由^{ニ付}、依之遠江守様^江
乍恐御願之寸志御内證被仰上被為下候様奉願候處、御請込宜敷
御座候、尤例年鞍馬山御札御持参^{ニて}命壽院江戶^江御下り被成候
則当年正月十一日京都御出口之被成去ル三月御帰京被成候
拙者御願申上候一儀右之弥助様を以御願被仰上被下候處、愈其者江府へ

62

罷出^者御不便^ニ被為思召可被為下旨弥助より命壽院^江被
仰候之旨命壽院被申聞候儀^ニ御座候

右御堂上様方御手懸り之趣御内證事^{ニ而}御座候、以上

巳二月 大谷九右衛門

63 (白紙)

64 (白紙)

65 (白紙)

66 (白紙)

67 (白紙)